

YAMANASHI

あけく



クラフト手芸

新年挨拶

施設職員交流ソフトバレーボール大会について

山梨県介護老人保健施設大会を振り返り

栄養士部会の活動

施設訪問記 あさひホーム

施設紹介 はまなす・フルリールむかわ

新年挨拶



山梨県老人保健施設協議会
会長
ほ さか ひさし
保 坂 久
(いちのみやケアセンター施設長)

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様にはますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は、新潟中越地震をはじめ各地で大きな災害に見舞われた大変な年でした。幸い山梨県では特別な災害もなく、本会所属の各施設は、それぞれに順調な発展をされたと思います。しかし、新潟県老人保健施設協議会の皆様の中には地震、風水害により今なおご不自由な生活を送られておられ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。尚、これに対し、本会の皆様には多額な義捐金を寄せられ、さっそく全国老人保健施設協会を通して尊い浄財として被災地に送らせていただきました。皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、本会におきましては、昨年4月、会長並びに役員交代という大きな節目を迎えました。会員の皆様のご協力をいただきまして当会の運営もスムーズに運び、つつがなく新年を迎える事が出来ましたこと、心から御礼申し上げます。そして、本年も介護老人保健施設の理念を改めて心に刻みいっそう努力して参りたいと存じますのでよろしくお願い申し上げます。

ところで、昨年は、本会に二つの朗報が届きました。その一つは、峡北シルバーケアホーム施設長の跡部勝朗先生が、永年当会の発展のためご尽力され介護老人保健施設事業に多大な功績を残されたとして、平成16年度厚生労働大臣賞を授与されました。誠に荣誉あることであり、心からお祝いを申し上げます。

もう一つは、第14回北海道大会で介護老人保健施設はまなすの口演発表が優秀演題として表彰されましたこと、併せて心からお祝い申し上げます。今後、本県から多くの演題が発表され全国大会において高い評価を得られますよう願って止みません。

介護保険制度の施行以来、さまざまに見直しが行われ、今年もまた各施設にとって厳しい施設運営を余儀なくされることと思います。しかし、栄養士部会の「あばあやんのおごっそう」の小冊子発刊にも見られるとおり、本会の各部会は、つましい活動費にもかかわらず、力強く活動を展開し素晴らしい成果を上げていますことには、深く敬意を表するものであります。これもひとえに、老健施設において、出来るだけ長生きし、楽しい人生を送っていただきたい、という誰もが望む願いを成就したいとの思いからです。それには、会員の互助の精神と、熱意ある介護の実践が絶対に必要であり、これを支えるものは介護保険制度を適切かつ高度な制度として国民の手で作り上げ実践する以外にはありません。

介護老人保健施設の理念が鮮明に見えてくる制度が一日も早やからんことを願っています。会員諸兄のご健勝とご発展を心から祈念し新年の挨拶といたします。



平成16年度
厚生労働大臣表彰受賞されました
跡部勝朗先生

(峡北シルバーケアホ - ム施設長)

〆全国老人保健施設協会長の推薦のあった介護老人保健施設事業功労者に対する表彰で大変名誉な受賞です。跡部先生は『自分一人に対する表彰ではなく、山

梨県の老健全職員のお陰であり、これに奢ることなく益々努力して行きたい!』旨のコメントを述べられました。

施設職員交流ソフトバレーボール大会について

第10回



平成16年11月28日(日)、甲府市総合市民会館・山の都アリーナにて『第10回山梨県老人保健施設協議会施設職員交流ソフトバレーボール大会』が開催されました。

今回は、県内29施設中25施設の参加があり多くの方が会場に集って、初冬の寒さも吹き飛ばぐらいの熱戦が展開されました。

『開会式』

手作りの個性あふれる色とりどりのプラカードを先頭に、応援席に高らかに設置された段幕、応援旗を背にコートに整然と整列した選手各位、男女年齢を問わず施設の代表として、練習の成果を試合に発揮するそんな真剣な顔ぶれが印象的でした。

朝一番さわやかな開会宣言後、保坂久会長のご挨拶にもあったように、『今日、ソフトバレーボールができる喜びを互いに分かち合い、明日への活力にしてほしい。』この一言は、今回は特に重みのある言葉であったと思います。

選手宣誓は、いちのみやケアセンターの内田貴行キャプテンの立派な宣誓に選手一同大いに賛同致しました。

『試合開始』



ソフトバレーボールの良いところは、比較的誰でも手軽にできるスポーツであることだと思います。ボールが落ちそうで落ちない、決まりそうで決まらない、そんなプレーの連続に白熱する試合を展開する選手は勿論、見ている人にも面白味・醍醐味があります。



「オーライ!」「どんまい!」「おいしい!」「よしやー!」「いくぞ!」等、得点が決まるたびに元気な歓声が会場全体をこだましました。各ベンチには、応援グッズを片手に、又は纏い、選手を勇気づける応援合戦も施設それぞれ工夫を凝らし大いに盛り上がったと思います。

『試合結果』

結果は、優勝『峡南ケアホームいいとみ』準優勝『甲州ケア・ホーム』でした。

どの試合も接戦であり、どちらが勝ってもおかしくない素晴らしい試合が繰り広げられたことと、勝負の世界の厳しさを越えて互いの仲間・他施設との交流が十分に図られたことが何よりもかけがえのない貴重な『チームワークの形成一助』に役立ったことと思います。

『閉会式』

自ら持っている力を十分に発揮し、充実感漲った選手各位へ健闘を讃える優勝カップ、賞状が授与され、米波達哉福利委員代表より講評に『年々レベルUPしている作戦技術は勿論、年に一度の大会に懸ける各施設の取り組み又、「魂」の継承』が評され大会が閉会宣言と共に幕を閉じました。

『まとめ』

日頃、老人介護に従事する方々らしく、互いに励まし時には厳しく涙あり、好プレーには感動し、珍プレーには笑いありフォローしあう姿はまさに大会目的である交流を深める良い機会になったに違いありません。

年に一度の恒例行事として行われた大会も10回目、参加される施設も年々増加し、同じ職業の仲間と奮起し共通する悩み、苦労、喜びなどスポーツを通じて分かち合う大会が更に意味のあることになるよう望んでおります。

大会運営にあたり、ご尽力いただきました県老健・保坂会長以下理事・福利委員担当施設・各施設キャプテン以下選手の皆様本当にお疲れさまでした。最後まで応援、有り難うございました。

(福利委員担当施設 あさひホーム 五味 記)

成績結果

優勝	峡南ケアホームいいとみ
準優勝	甲州ケア・ホーム
第3位	甲府南ライフケアセンター サンビューかじかざわ
応援大賞	ももくら サンビューかじかざわ

第7回

平成16年10月13日(水)

山梨県介護老人保健施設大会 を振り返り

山梨県介護老人保健施設協議会

研修委員長 臼井行夫



平成16年度、第7回山梨県介護老人保健施設大会が秋容の中、甲府市のベルクラシック甲府に於て開催されました。

当日は県下29の施設より300人超の役職員のご参加と山梨県より杉原初男福祉保健部長様のご臨席もいただき盛大に催すことができました。関係者全ての皆様に心から御礼申し上げます。

本大会は回を重ねるごとに参加者、演題も多くなり今回は33演題の発表がありました。発表に先立ち、生活とリハビリ研究所の三好

春樹先生の講演もありました。先生は「介護は強制的、画一的でなく主体的、個別的にやるべきだ」と私達が現在試行錯誤の連続の中判りやすくまさにタイムリーなお話をさせていただきました。

つづく演題の発表では、例年にも増して深く掘り下げられた内容と工夫をこらした発表が数多くみうけられすばらしい研究の成果でありました。

介護保険が施行されて以来、施設にとっては絶えず介護の味が問われつづけてまいりましたが、本大会で見限り各施設役員一丸となって老健の役割を厳しく認識され仕事に取り組まれている様子を強く伺い知ることができました。このことは歴史の浅い老健施設が近い将来必ず高い評価と認知をいただけるものと確信すraitしたしいであります。

現在も介護保険制度の中で我々施設に対し厳しい注文と改訂という言葉をよく耳にします。この時に私達がその理念と実績で多くの皆様から評価をいただくにはさらに精進し前進した老健をつくらねばなりません。配布された抄録集を生きた参考書として日常業務の糧としていただければ幸いです。

最後に、今大会でさらに学びとった事は、私達の仕事は画一的ではなく利用者ニーズに沿った個々のサービスであり、利用者個々にどれだけかわりを持てるかではなかったでしょうか、判っていることかも知れませんがこれが福祉の原点であることをもう一度確認し日々の仕事に活かそうではありませんか。



三好春樹先生
理学療法士(PT)生活とリハビリ
研究所代表

1950年(昭和25年)生れ
高校中退の後、数々の職業に就き、1974年(昭和49年)から広島県内の特別養護老人ホームに生活指導員として勤務。

文部省大学入学資格検定を経て、九州リハビリテーション大学校へ入学後、老人介護の現場で老人のリハビリテーションに従事する。

1985年(昭和60年)に退職、生活とリハビリ研究所を主宰し、各地の通所訓練や在宅訪問に関与しながら全国で、「生活リハビリ講座」を開催。年間動員数は50,000人へのぼる。

高齢者ケアの情報誌(元気が出る情報交流誌)『Bricolage』発行人として執筆活動も展開し、著書に『関係障害論』『じいさん・ばあさんの愛しかた』など多数。

介護老人保健施設はまなすさん

第14回全国老人保健施設大会in北海道での口演発表が『優秀演題表彰』の栄誉を受賞され、第15回大会(香川県)で記念講演されましたのでお知らせします。

内 容 『個人にあった車椅子の提供を目指して』
～心地よい座位をもとめて～

発表者 窪田OT

共同研究者 福田医師、門馬看護師、神藤・工藤・小林・磯崎OT、三輪PT

この演題の抄録は全国老人保健施設協会ホームページ

(<http://www.roken.or.jp>)の全国大会から検索することができます。

演題の一覧

セクション1 看護、介護（一般）

座長 はまなす 施設長・医師 福田六花

- ▶ 独自の行動記録表の導入を試みる。
～睡眠と行動パターンを一覧表で見る～
甲州ケア・ホーム 介護福祉士 横瀬ゆかり
- ▶ 自然排出された巨大膀胱結石
白樺荘 看護師 小俣 寛子
- ▶ 「おしっこが出るような気がするの」
～やったね。バルーンが抜けた～
はまなす 介護職員 水上 早苗
- ▶ 「おむつによる圧迫と褥瘡のケア」
ナーシングプラザ三珠 介護福祉士 飯塚 和美
- ▶ 老人と性
～きもちの良い施設生活を～
ももくら 支援相談員 小林 文晴
- ▶ おむつの個別対応
～効果的な使い方を求めて～
ケアホーム花菱 看護師 神澤 典子
- ▶ FCクッション [Functional Hold Cushion System] 導入を試みて
～利用者のQOLを支える為の取り組み～
NAC湯村 介護職員 時田 宗久
- ▶ コミュニケーションによる偽薬の効果
ノイエス 看護師 雨宮みさを
- ▶ 舌苔をとるパイナップルの効果
～安全で美味しい楽しい口腔ケア～
フルルールむかわ 歯科衛生士 増田 裕美

セクション2 看護、介護（痴呆）ケアプラン、リスクマネジメント・栄養、食事

座長 甲府相川ケアセンター介護福祉士 土屋洋一

- ▶ 回想療法の一試行
～痴呆高齢者に笑顔が蘇った～
山梨ライフケアホーム 介護福祉士 清水 勝彦
- ▶ 老夫婦の切なる願いを叶えるために
～おらんとうは、なえここにいるで～
ナーシングプラザ三珠 介護職員 村松 実佳
- ▶ 訓練を通じて排泄ケアへの第一歩
～QOLの向上によって心身の活性化を図る～
勝沼ナーシングセンター 介護職員 奥田 純
- ▶ 転ばぬ先の杖を目指して
～事故対策について考える～
峡南ケアホームいいとみ 介護職員 中込 英子
- ▶ 痴呆棟における開放感を求めて
～1階のドアを開けますのでお願いします～
甲府相川ケアセンター 介護福祉士 小林 りえ
- ▶ 希望が叶うっていいなあ
～ターミナルケアを経験して～
はまなす 介護職員 渡辺 智子
- ▶ リハビリテーションの視点から転倒事故を考える
～当施設における転倒事故の現状と要因～
勝沼ナーシングセンター 作業療法師 河西 篤美
- ▶ いこい
～施設の中の異空間～
ケアセンターいちかわ 介護福祉士 平岡 初代

セクション3 リハビリテーション、レクリエーション・通所リハビリテーション、在宅サービス、地域との連携・管理、運営・その他

座長 峡北シルバーケアホーム理学療法士 長田 悟

- ▶ お茶会
～職員のコミュニケーション技術向上の方法～
甲府かわせみ苑 介護主任 芦沢 英雄
- ▶ グループリハ ～わくわくクラブ～
～楽しい時間を過ごせる場の提供として～
ふじ苑 介護職員 穂山 りえ
- ▶ 「楽遊会」
～楽しいレクリエーションに向けて～
峡北シルバーケアホーム 介護職員 小林真由美
- ▶ 趣味・習い事・昔取った杵柄等を支援する当施設の取り組み
～小グループ活動の推進～
つる 看護師 山崎 秀子
- ▶ レクリエーションの参加率と満足度の関係
～楽しんでますか？～
ナーシングプラザ三珠 介護職員 井上 知之
- ▶ 「通所リハビリにおけるケアの統一」への取組
～ケアチェック表の作成、実行、評価～
玉穂ケアセンター 介護職員 河合 操
- ▶ ショートステイの弾力的運営によるベッド利用率の変化
ひばり苑 支援相談員 本 敏己
- ▶ 私の考えたチャレンジで利用者に笑顔を...
～目標管理を導入して～
峡西老人保健施設センター 介護福祉士 野田 恵利

セクション4 看護、介護（一般）

座長 甲州ケア・ホーム 看護師 秋山小枝子

- ▶ 老人保健施設による内服自己管理能力の試行
鯉沢社会保険介護老人保健施設 看護師 市川 留美
- ▶ また歩けた！僕の押し車
～本来の自分を求めて以前のADLを取り戻した一事例～
いちのみやケアセンター 介護職員 堀内 渉
- ▶ 褥創の改善に向けて!!
～食事意欲向上と褥創対策～
あさひホーム 介護職員 大柴 恵子
- ▶ 胃ろうの方の口腔ケアについて
恵信ケアセンター 看護師 望月 真弓
- ▶ ずっと一緒に過ごそうね
～夫婦そろっての入所に関わって～
しおかわ福寿の里 介護福祉士 堀内 晶子
- ▶ 施設でのADL能力改善への取り組み
～チームアプローチリハを通して寝たきり全介助状態から車椅子自走などADL改善が得れた一症例～
甲府南ライフケアセンター 介護職員 篠崎 弘祐
- ▶ 経口摂取を中心とした、日常生活援助により褥瘡の改善を
～見た事例の報告～
ひばり苑 看護師 谷村千代子
- ▶ 安心して入所できる環境づくり
～コミュニケーションの重要性～
ノイエス 介護職員 平井 大貴

栄養士部会の活動

栄養士部会長 渡辺 紀子
(山梨ライフケアホーム)



山梨の郷土料理の本『おばあちゃんのおごっそう』を読んでもいただきましたでしょうか？読んでいただいた60代位の方からは「とても懐かしい」という感想を頂いております。この本は、日々業務に追われ一日一日をこなしていくのが精一杯の中ふと、「本当にこの食事で入所者は喜んでくれるのだろうか？もっともっと入所者のことが知りたい」そんな老人保健施設で働く栄養士の気持ちから平成15年度の役員が中心となり一年をかけ作成された物です。この本に集められた料理からは、カロリー計算だけでは計れない人間の生きる為の深い深い知恵、家族の愛、仲間の絆などを学ぶことが出来ます。冷凍食品、ファーストフード、食べたい物がお金を出せばすぐ食べられるそんな時代に生きる私たちにこの本を通してあらためて『食のあり方』を入所者、地域のおじいちゃん、おばあちゃん達から教えて頂いたように思います。本のあとがきにもありますが、「我々は施設の栄養士として命を繋ぐ食のリレーの一端を担い次世

代にこの素晴らしい財産をバトンタッチしたいと思います。」是非、この本を老健全体で役立てていただきたいと思います。さて、今年度栄養士部会では「嗜好的な面のサービスの向上」「食の機能的な面の向上」に重点を置き部会を構成していきました。第1回目の部会では事前に行事食のアンケート調査を行いそれに添って各施設の行事食の紹介、情報交換等を行いました。第2回目の部会では、ソフト食又第1回目部会の行事食の中から興味あるものを選び調理実習を行いました。来年度からは行事食に山梨の郷土料理が見られる施設もあるかもしれません。ソフト食については、まだ老健栄養士部会では暗中模索の状態ですが今後、他職種との連携をとりながらその必要性又、機能的な面をしっかりと勉強していく必要があると思います。第3回、2月の部会ではソフト食を研究されている花形歯科医師をお招きして講習会を開催する予定です。是非多くの方のご出席とご協力をお願い致します。





秋 晴れの心地よい11月のある日、あさひホームを訪問させて頂きました。

韮崎市の南、標高470mに位置し、北に茅ヶ岳から八ヶ岳の山並み、南に美しく裾を引く富士山を望む抜群の景観です。のどかで、とても自然豊かな環境の中、利用者の方々にとっては、本当に優しい安らぎの施設というのがあざやかな第一印象でした。

今回は、施設の特徴や目標、そして取組について、山本恭雄理事長さんと五味卓彌事務長さんからお話を伺いました。

施設の特徴

平成2年、県内で5番目の老人保健施設として開設されました。当初から他の老健にはない自慢の物がここにはあります。地下1,200mから湧き出ている、湯温42度のミネラル成分豊富な温泉は、別名『美人の湯』と呼ばれています。この温泉は3階の展望風呂に運ばれ、湯煙の向こうに、遠く富士山を眺めながら、あふれ出るお湯にゆったりと浸る気分は最高の贅沢と言えるでしょう。体がぽかぽかと温まって、その上、お肌がツルツルになるというおまけ付きで、利用者の方々からも大好評とのことでした。

地域との触れあい

お訪ねした日は、11月生まれの方々のお誕生会が行われていました。テーブルには色とりどりのお花が飾られ、一人ずつ写真を飾りながら紹介されていきます。

そうした和気あいあいとした雰囲気の中、甘利小学校4年生約20名の生徒さんが、リコーダー演奏や手品、朗読や人形劇等々の出し物を披露してください、利用者の方々も一緒に歌ったり楽しいひとときとなりました。

このような訪問は、小学生だけではなく、幼稚園児、中学生、高校生など年間を通じてしばしば行われているそうです。また、一般のボランティアの方々もたくさんいらっやって、地域との交流が非常に活発な施設だとの印象を受けました。

今後の目標と取組

職員が、積極的に利用者に働きかける中で、工夫を凝らしたレクリエーションを行うなどして、利用者の方々には毎日を気持ちよく充実した生活を送って頂くよう取り組んでいきたいとのことでした。

また、周辺には農家が多いという地域性もあって、農繁期での積極的な受け入れや、在宅サービスにも力を入れていて、「必要なときに必要なサービスを提供できる」ことを目標に運営されているとのことでした。

取材を終えて、職員の方々の明るさが、利用者の安心感に満ちた笑顔につながっていると実感しました。



施設の概要

入所定員	100名(療養室 30室)
通所定員	10名
協力病院	韮崎相互病院
協力歯科	あさひ歯科医院
所在地	〒407-0045 韮崎市旭町上条中割473
電話番号	0551-23-3500 FAX 0551-23-3505
設置・運営主体	社会福祉法人 あさひ会

● 施 ● 設 ● 紹 ● 介 ●

はまなす

〒401-0301 南都留郡富士河口湖町船津6901
TEL 0555-83-3285

医療法人社団青
虎会介護老人
保健施設はま
なすは、2002年11月に

富士河口湖町に開設した
まだ新しい老健施設
です。正面に富士山を
臨み、河口湖にも近い
恵まれた自然環境の中
にあります。



入所定員は90名（痴
呆専門棟40名）。その他に定員20名の通所リハビリテーションおよび訪問リ
ハビリテーション。また定員20名の通所介護ラベндаー、定員19名のショート
ステイスマイル、定員9名のグループホームがあり、お年寄り一人ひとりの
ライフスタイルに合った、様々な介護サービスを提供しています。

より多くの方の家庭への復帰を目指し、リハビリテーションの充実、頻回
なカンファレンスの開催、夜間入浴の実施、一切の身体拘束廃止などを開設
時より実行しております。また四季折々の行事、豊かな自然や文化施設を巡
る外出行事、誕生月の外食行事、アニマルセラピー、アロマセラピー、純正
律音楽によるミュージックセラピーなど様々な取り組みを行い、利用者の方
に安らかで充実した毎日を過ごして頂けるよう、職員一同知恵を絞って、汗
を流して頑張っております。

21世紀高齢化社会、健やかで幸せな生活を支えられたら、これが私達の願
いです。

フルリールむかわ

〒408-0307 北杜市武川町柳沢740-1
TEL 0551-26-0111



医療法人燦生会
介護老人保健
施設「フルリ
ールむかわ」は、平成
14年12月2日に北巨摩
郡武川村（現在の北杜
市武川町）に開設いた
しました。入所90名、
通所20名の開設満2年
の新しい施設です。

フルリールむかわの

ある武川町は、山梨県の北西部に位置し、鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、八ヶ
岳など南アルプス連峰がそびえ立ち、日本三大桜のひとつ神代桜とおい
しい武川米、大武川、小武川の名水に恵まれた大自然のふるさとです。

デイルームからは八ヶ岳、茅ヶ岳が一望でき、春には桜、夏にはグリー
ンのじゅうたんを敷きつめたような水田をわたる風が清涼感を誘い、
秋には武川米が町を黄金色に染め四季折々ののどかな情景を楽しむ事が
できます。開設当初から「食べる力が生きる力」という理念から口腔ケ
アに力を入れています。今年度はさらに口腔ケア・嚥下チームを組み、
きざみ食の全面廃止に向けソフト食への取り組みを始めました。すばら
しいロケーションのデイルームでの毎日の食事は、コミュニケーション
を大切にし、より家庭に近い雰囲気です。食事を楽しんでいただきたいとい
う思いから対面の盛り付けサービスを行い、利用者からも大変喜ばれて
います。

明るく、家庭的な雰囲気の中で職員一同、フルリールむかわゴールデ
ンルール『私たちがして欲しいと思う介護を利用者に』を常に念頭に置
き、より良い介護をめざし取り組んでいます。

シリーズ さくひん



クラフト手芸について

(あさひホーム)

この作品は、利用者がリハビリ作業療法の一環として、完成させた物です。クラフト手芸の材料は、主に新聞の広告紙を使い、一部で毛糸なども利用して作成します。

利用者にとって施設内で行う活発な趣味活動は、心身の活性化につながり、何よりも完成品のイメージを抱いて制作に工夫を加え、徐々に仕上がっていく作品を前にして、日々の療養生活の大きな励みになっています。

完成した作品は、面会に来られるご家族、知人、友人へのプレゼントや小物入れ、鉢入れとして活用しています。

それぞれのペースで真剣に取り組み、手先を器用に使い、細かい所まで気を遣い作成するので、認知症の進行防止は勿論、完成時に得られる達成感は本当に大きいものがあるようです。

編集後記

新春のお慶びを申しあげます。私が編集委員長をお引き受けしたしてから2回目の発行になりますが、広報誌「ろうけん」を本年もどうぞよろしくお願いいいたします。

平成17年は介護保険制度改正法案が国会提出され、「走りながら考える」としてスタートした平成12年制度導入から5年後の抜本改定前夜です。

17年10月にも食住費関係の変更があるようですが、18年4月抜本改正における主なものは、予防重視型システムへの転換が重要な課題として掲げられており、施設運営上も大きな影響があると思料されますが、現行制度における各施設の弱点等を見直し、新制度にスムーズに移行出来るよう肅々と足腰を固めなければなりません。皆さん頑張りましょう。この広報誌でも制度改革を判りやすくお伝えするような紙面も今後検討して行きたいと考えています。

広報委員長 草野 佐
(サンビューかじかざわ施設長)

山梨県老人保健施設協議会広報誌

編集・発行 山梨県老人保健施設協議会
広報委員会

事務局 〒405-0076
山梨県笛吹市一宮町竹原1255-1
いちのみやケアセンター内
TEL.0553-47-4811
FAX.0553-47-4815

ホームページ:

<http://www.kokumon.co.jp/y-rouken/>

Eメール:rouken@tiara.ocn.ne.jp

制作 株式会社 少国民社